

福岡県人権研究所は 2024 年 9 月 28 日で、
前身の福岡部落史研究会創立から 50 周年を迎えます。

I <報告>

(1) ジェンダー一部会（園田）

○ジェンダー一部会学習会・報告 2023. 12. 10

「未熟な言葉・その手ざわり」・『匪俗の笛』森崎和江

<概略>

・『匪俗の笛』は前回までに一応読み終えた『からゆきさん』とは違い、大きく5つに分類された32本の随筆・論述からなっている。ジェンダー一部会の2冊目のテキストである。

侵略国家の子どもとして、植民地朝鮮で生まれ育った和江さんが許せる自分に出会うことはほんとうに難しい仕事だった。故郷から心をねぎ切るように、自ら生爪を剥ぐような具合に生きてきて・・・いまは、その後の自分を、無意識に放っていてももう許せるような思いになっている。この『匪俗の笛』はそう思えるようになるまで自分を鍛えてくれた階層の人々への観点が軸になっている。農民から労働者へと生きてきた鉱夫たちの精神史の書下ろし・『奈落の神々』の基盤、骨組みともなる民衆の内的世界を手探っていた折に書いたものであると。

・「ことばは魂の道である。いのちを生かすべく食を求めたすべての行為とともに開拓され、伝承された。その二次的展開はことばを人間から自立させもする。けれどもその根幹は生きようとする人の営みにある」という前回学習した言辞（「民衆ことばの発生」）に、今更ながら、がくん！と引きもどされる。

こういう「言葉」の事実から、どんなにも気が遠くなるほど、現代、話し言葉も書き言葉も縦横に飛び交い、洪水のように氾濫している。まさに、和江さんの言うように、「もう言葉で表現されないものはまるで見当たらない気がするほど」であるのだ。

だが、「顎たん叩き」といわれながら、和江さんがこだわりつづけたのは、未だ言葉化していない広い領域～言語化されていない多くの肉体的体験、語りたくて血が噴いていても一つの文化体系の枠外にあるがゆえに黙ってしまう体験、胎児を包括している肉体と意識の関係・その複合された単独性・・・など。

和江さんはだから、「ガタガタ顎たん叩くな、という想い」のそばへ、「言葉の発生母胎である具象」、「血をしたたらせている肉体のあえぎ」に繰り替えし戻りたいという。

そして、一方では、私たち・個体とことばに関しては、ことばは創る前にそこに在り、自然条件のような文化要素であり、それを離れて個体は存在しないところの文化である、とも言っている。

内在的な価値体系が、普遍的なことばから、ことばを選び抜いて組み合わせで外化されるまでには長い沈潜の時間を必要とする、「その自分のことばを持つまでの時間を持つ権利はすべての者にある。」という言説には、自己表現を求めつづけている者には、胸深く痛まないことは出来ない。

最後は、「ことばとは、まだまだ未熟な人間的所産なのだから」ことばを愛し、ことばとたたかっていたと思う」と結ばれている。厳しくも、元気が湧いてくる言葉である。

<感想>

・言葉の大切さについて考えさせられた。言葉として残さない人に伝えたり共有したりすることもできない。しかし、反面言葉は人を傷つけることもある。また、しっかり考えないと言葉によって、ちがう考えに絡め取られていくこともある。みなさんの話を聞いて、言葉についてより深く考えることができた

・日頃、社会の評価の違い（多くの立派とされているかつての男性の）、女性に対しての・・・に愕然としている私です。

・高齢女性の生きにくさを仕事を通して、毎日目や耳にして、考え込んでいます。何が悪いのか？年金制度？いや年金制度そのものは男性より手厚いが、どうすればよいのか・・・。

・参加久しぶりでしたが、「未熟なことば・その手ざわり」ことばについて今日はとても大切な部分だったと思います。論理や意味だけでなく「ことば」の広がりを感じ取ることが大事だと皆さんの話を聞いて考えさせられました。

・自分のことばは、自分が生まれてきて、まわりの人間が使ってきたことば、そして体験したことによってつくられてきたんだと分かり、いったい、森崎さんのいうどんな手ざわりなんだろうと思いました。また、どんなにおいの言葉をもっているんだろうと思いました。

・言葉のことを勉強すればするほど自分という人間の発する言葉について興味を持ちます。

・ことばにたいする思い込みとして語彙が豊富であれば何でも表すことができるということがあると思いますが、実はことばで表せないことがたくさんあり、むしろ言葉で表すことのできることの方が少ない、あるいは偏っているとさえいえるのではないかと思います。

・「未熟なことば」というのは、使い手の言葉が未熟というより、言葉自体が未熟なものであるという認識が必要なのだと思いました。だからこそ肉体の言葉や沈黙に耳を傾ける森崎さん、「文化の対等性」に迫る森崎さんに学びたいと思いました。

・文化の多様性を認めるべきだということは、よく言われることですが、異質な価値体系をもつ文化間でお互いの存在を認め合い働きかけ合って成熟していくことがどんなに難しいことなのかを私たちは日常の様々な場面で実感させられています。現代的な課題なのだと思います。

・「ことばは地上生活者の感性でしめられているので元坑夫の多くは肝心な所で口をつむぐ」ことばは男性の感性でしめられているので・・・。ことばは強者の感性でしめられているので・・・。ことばは支配者の感性でしめられているので・・・。ということですよ。

・まだ多くの面にわたって、広い意味で肉体的体験とことばとの間には基本的用語がまだ生まれていないということ。女性が生命を宿して後の、生理的な変化と意識（ことば）との間の乖離ということを森崎さんはよく語られているが、その意味が少し分かったような気がしました。

・ことば（文化）の対等性が容易に認められない現実を抱えながらもその差別をこえていくには、各自が主体的に自己表現しながら文化の対等性を承認していくことが必要なのだということが心に残りました。

※次回の活動予定：

日時：2024年2月25日（日） 14：00～

場所：福岡県人権研究所

テーマ「森崎和江『匪賊の笛』を読む 学習会」

(2) 第5回教育部会（峰）

2024年1月13日（土）（於福岡県人権研究所）

テーマ「これからの教育部会の在り方について」

1月13日（土）10時から12時まで第5回教育部会を「これからの教育部会のあり方について」をテーマとして行いました。参加者は、3名でした。まず、2023年度の活動報告をもとに振り返りをしました。今年度は5回の開催しかできませんでした。参加者も3～4名でした。しかし、内容的には、コロナ禍後の教育について生かすべき点について論議できたことは有益であり、今後の教育の在り方を考えるヒントになった、また、参加者の問題意識から出る意見交流が非常によかった、などの意見が出されました。予定していた次回2月10日は中止とし、今回が今年度の最後とすることにしました。2024年度も基本的に毎月第2土曜日の10時から12時、このような形で開催していくことが確認されました。次回は2024年4月13日（土）

「2024年度教育部会の活動計画」を立てる予定です。

※次回の活動予定：

日時：2024年4月13日（土） 10時から12時

場所：事務局

テーマ「2024年度教育部会活動計画について」

Ⅱ <お知らせ>

(1) 部落問題部会 第4回 研修会

今回の研修会内容は、一昨年出版された絵本『いのちの花』の『実践事例集』（「人権研究所出版」）の中の授業実践からです。福岡市で行われた、社会科の授業と人権・部落問題の教材とを結びつけ、膨らませた実践の発表です。併せて「井元麟之・人とその思想」の第3回も行います。内容は、爆弾の無い爆弾事件と言われている「福岡連隊事件」についてです。福連事件の秘話も含めて・・・。

多くの方のご参加をお待ちしています。学び合いませんか、教育・啓発の理論と実践について！！

日時：1月27日（土）13:00 受付 13:30 開会

会場：福岡市教職員組合東部事務所

（福岡県福岡市東区馬出4丁目2-17）

内容：

1. 授業実践報告・「絵本『いのちの花』が生まれでた!!」：実践事例集より

報告者：古賀朗さん

テーマ：「絵本『いのちの花』と歴史授業」

2. 「井元麟之・その人と思想」～第4回 「福岡連隊事件」について～

報告者：上滝怜子さん

テーマ：「福岡連隊事件と井元麟之」

問合せ：公益社団法人福岡県人権研究所

TEL (092) 645-0388 FAX (092) 645-0387

(2) 啓発部会（第8回）

日時：1月27日（土）13:00～

場所：田川市民会館

内容：

①自治体職員研修の資料の検討

②来年度の活動について

問い合わせ先：福岡県人権研究所（092-645-0388）

(3) 史・資料プロジェクト 2023年度第9回研究会

日時：2月10日（土）14：00～

場所：古賀市ししぶ交流センター（JRししぶ駅西口）

古賀市日吉3丁目14-3 （092）942-3243

（会場のてまえ30mの所に専用駐車場がありますのでご利用ください）

提起：塚本博和さん（会員）

テーマ：「福岡県水平社委員長：梅津高次郎、梅津良平から松本治一郎への手紙」

松本治一郎旧蔵資料（仮）には、梅津高次郎封書2通、梅津良平はがき3通が保管されている。手紙原本（複写）と翻刻文を比較検討し、梅津高次郎、梅津良平と松本治一郎との関係を探る。

資料代：500円

申込み：不要

連絡先：公益社団法人福岡県人権研究所

電話（092）645-0388

メール info@f-jinken.com

(4) ジェンダー部会

日時：2月25日（日）14：00～

場所：福岡県人権研究所

テーマ：「森崎和江『匪賊の笛』を読む 学習会」

(5) 教育部会

日時：4月13日（土）10：00～12：00

場所：福岡県人権研究所

テーマ：「2024年度教育部会活動計画について」

(6) 2023年9月25日（月）21時～テレビ朝日 ABEMA Prime（ネットテレビ）に川口泰司さんがご出演され、川口さんの新刊『「寝た子」はネットで起こされる！？』（福岡県人権研究所）が紹介されました。以前、『リベラシオン』144・186号に東日本大震災被災地支援についてご執筆された片岡遼平さんもお出演されています。以下のサイトでご視聴いただけます。

https://www.youtube.com/watch?v=o0opx_QdRe4

『「寝た子」はネットで起こされる！？』お求めはこちら↓

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/item-detail/1428113>

※以下の研究所サイト（イベント・部会等）はGoogle、Edgeでは表示に不具合が生じるため、Firefoxというブラウザでご覧下さい。

Firefoxのダウンロードは以下のサイトからお願いします。↓

<https://www.mozilla.org/ja/firefox/windows/>

・ イベント

<http://www.f-jinken.com/event.html>

・ 部落史部会

2月10日（土）「福岡県水平社委員長：梅津高次郎、梅津良平から松本治一郎への手紙」（塚本博和さん）

<http://www.f-jinken.com/activity/burakshi.html>

・ 教育部会

4月13日（土）「2024年度教育部会活動計画について」

<http://www.f-jinken.com/activity/kyoiku.html>

・ ジェンダー部会

2月25日（日）「森崎和江『匪賊の笛』を読む 学習会」

<http://www.f-jinken.com/activity/gender.html>

・ 外国人部会

1月27日（土）「2024年の活動内容の話し合い」

<http://www.f-jinken.com/activity/gaikokujin.html>

・ 啓発部会

1月27日（土）「①自治体職員研修の資料の検討、②来年度の活動について」

<http://www.f-jinken.com/activity/keihatsu.html>

・ 海外人権スタディツアー企画部会

<http://www.f-jinken.com/activity/kaigaistudy.html>

・ 部落問題部会

1月27日（土）「授業実践報告」「井元麟之・その人と思想 第4回」

<http://www.f-jinken.com/activity/burakumondai.html>

・ 特別プロジェクト「松本治一郎・井元麟之」研究会

<http://www.f-jinken.com/activity/project1.html>

〔人権研究所 書籍販売〕

新刊『「寝た子」はネットで起こされる！？—ネット人権侵害と部落差別—』（川口泰司著）

新刊・既刊のお求めはこちらから↓

<https://books-f-jinken.raku-uru.jp/>

当研究所 HP、コラム「羅針盤 PART II」

<http://www.f-jinken.com/index.html>

研究所フェイスブック

<https://www.facebook.com/fukuokajinkenken/>

☆ニュースのバックナンバーは下記研究所公式サイトでご覧いただけます。

<http://www.f-jinken.com/newsliberacion.html>

◇みなさんの投稿お待ちしております。

info@f-jinken.com （登録解除はこちらから）

【公益社団法人福岡県人権研究所は、会員の会費で運営されています。】